

平成21年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

平成21年11月
長野市教育委員会

1 趣 旨

長野市では、本市の児童・生徒にどのような学力が定着し、どのような課題があるのかを把握し、「基礎学力の保障」を図るため、長野市小中学校基礎学力調査事業を推進しています。

今年度、その取り組みに活かすべく、平成21年度全国学力・学習状況調査に参加し、8月末にその結果が返却されましたので、児童・生徒の学力や学習習慣、生活習慣等に関わる状況について調査結果の概要を取りまとめました。

本市では、調査結果をもとに教師の指導改善や学校の教育課程改善を図ることで、児童生徒への基礎学力の保障を図ることを第一と考えており、調査結果の数値は、指導した教師が自己の指導を振り返るためと、児童生徒一人一人が学習改善につなげるためのみに活用しておりますので、本調査の概要については、数値ではなく文章表現で公表することとしました。

2 調査対象学年、調査問題、実施学校数、児童生徒数及び調査実施日

	対象学年等	調査問題	長野市の状況		実施日
			実施校 / 全学校	実施児童生徒数 / 対象児童生徒数	
小学校	小学校 第6学年	国語A・B、算数A・B 児童質問紙	54校 / 54校	3,533人 / 3,659人	平成21年 4月21日(火)
	学 校	学校質問紙	54校 / 54校		平成21年4月21日 までに実施
中学校	中学校 第3学年	国語A・B、数学A・B 生徒質問紙	21校 / 23校	3,017人 / 3,552人	平成21年 4月21日(火)
	学 校	学校質問紙	23校 / 23校		平成21年4月21日 までに実施

実施児童生徒数は、4月21日に調査を実施した児童生徒数。実施日以降に実施した児童生徒数は含まれていません。
北部中学校と豊野中学校の2校は、調査期日が当初に示された期日から変更になったため、修学旅行日と重なり、後日実施。したがって、各教科の検査結果には、含まれていません。

3 調査実施内容

小学校6年 中学校3年	<教科に関する調査> 主として「知識」に関する問題(国語A、算数・数学A) 主として「活用」に関する問題(国語B、算数・数学B)	学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する調査(児童生徒質問紙調査)
学 校	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査(学校質問紙調査)	

4 留意事項

- (1) 教科に関する調査については、調査科目が、国語、算数・数学の2教科のみであることから、学習指導要領に示された身につけるべき学力の全体を網羅しているわけではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の一部であるということに留意する必要があります。また、質問紙調査については、質問項目に関する児童生徒や学校の実態の傾向を示したものであり、改善に向けては個々に対応することが大事であることに留意する必要があります。

(2) 本概要は文部科学省が提供する次の資料と関連づけて活用してください。

「平成 21 年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」

ホームページアドレス <http://www.nier.go.jp/09chousakekka/index.htm>

「平成 21 年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」

ホームページアドレス <http://www.nier.go.jp/09chousa/09chousa.htm>

5 調査結果の概要

(1) 児童生徒の学力に関する調査結果

全体概要

- ア 実施調査問題ごとの状況（長野市児童生徒の平均正答率を全国平均正答率と比較）
小学校 6 年生
国語 A 国語 B 算数 A 算数 B すべての教科で全国平均正答率を上回っています。
中学校 3 年生
国語 A 国語 B 数学 A 数学 B すべての教科で全国平均正答率を上回っています。
- イ 問題ごとの正答数合計の分布状況は、全国とほぼ同じ傾向です。全国に比べてみると正答数が少ない児童生徒の割合が低く、正答数の多い児童生徒の割合が高くなっています。
- ウ 無解答率が高い問題は全国と同じ傾向です。平均無解答率は全国平均に比べて低くなっています。
- エ 過去 2 年間の学力調査の標準化得点（平均正答数を 100 とした得点）を比べると、本年度の標準化得点は、大きな変化がないことから、本年度の長野市の調査該当児童生徒の学力は、昨年、一昨年の該当児童生徒とほぼ同じであると言えます。

問題別の概要

長野市の児童生徒が、今回出題されている問題について、どのような力が定着していてどのような力に課題があるのかを把握するために、次の観点で調査問題及び学年別に概要をまとめました。

- 観点 印：長野市児童生徒の各設問の正答率について、正答率が全国平均以上の設問のうち特徴的な設問を取り上げました。
- 印：長野市児童生徒の各設問の正答率について、正答率が全国平均（公立校）以上のうち、課題と考えられる設問を取り上げ、その学習指導改善のあり方について記しました。
- 印：長野市児童生徒の各設問の正答率について、正答率が全国平均以下の設問のうち、特に課題となる設問を取り上げ、その学習指導改善のあり方について記しました。

【小学校 6 年生】

学 力 の 状 況	
小学校 国語 A	<p>漢字やローマ字を正しく読んだり書いたりする力は定着しています。</p> <p>「7話し合いを計画的に進める」は、話し合いの中での司会の役割や働きをとらえて、司会の進め方のよいところを説明する問題ですが、児童は、日ごろの話し合い活動等で、司会を経験する中で、参加者の意見を生かして進めていくことのよさを理解していることがうかがわれます。</p> <p>「9毛筆で書く」では、文字の大きさや配列に注意して書くことをみる問題ですが、文字を行の中心に合わせることを理解に課題があります。書写の学習においては、学年の段階に応じて指導することが大切ですが、高学年においては、用紙との関係から考えられる文字の位置、字間、行間などの効果的な在り方を理解して書くように指導する必要があります。</p> <p>「8接続語を使って一文を二文に分ける」では、文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題があります。文や文章の構成に注意して書くときに、接続語の働きを生かしてわかりやすく書くように指導する必要があります。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小学校国語B</p>	<p>「4図を使って説明する」では、説明する目的に応じて図などの資料から必要な情報を取り出す力は定着しています。</p> <p>「2表をもとに話し合う」では、自分の立場や意図を明確にし、数値を根拠にししながら自分の考えを発表することに課題があります。図表やグラフなどから読み取ったことをもとに、自分の考えを明確にして相手にわかりやすく説明したり、報告したりするなどの言語活動を行い、自分の立場や意見と具体的な数値などの根拠とを論理的に結びつけながら説明したり報告したりできるように指導する必要があります。</p> <p>「1調査報告文を書く」では、報告文を書く目的に基づいて調査する内容を項目立てて整理することに課題があります。報告文を書くためには、全体を見通して書く必要のある事柄を収集、選択した上で、構成をしたり記述をしたりすることが大切なので、全体を見通しながら、書く必要のある事柄を整理する指導をする必要があります。また、課題について調べて報告する文章に書く力は、社会科や理科、総合的な学習の時間などにおいても必要な能力であり、それらの学習と関連付けて指導する必要があります。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小学校算数A</p>	<p>「1四則計算」では、整数、小数、分数の計算や四則の混合した計算をすることが、「5図形の定義や性質」では、長方形や平行四辺形などの定義や性質について理解することが、「8資料の分類整理」では、資料を二つの観点から分類整理し、二次元表を用いて表すことができている。</p> <p>「7百分率」では、割合が【比較量÷基準量】で求められること、及び基準量を100として、それに対する割合で百分率を表すことに課題があります。問題の場面から、数量を線分図やグラフに表す活動を入れ、何が比較量で、何が基準量であるかをとらえられるように指導する必要があります。</p> <p>「2十進位取り記数法、数の相対的な大きさ、偶数と奇数」では、一目盛りの大きさを考えながら数直線から数を読み取ることや100を単位として数を構成すること、偶数の意味について理解することに課題があります。数直線を基に数の大小や順序を読み取る指導や方眼ノートを使って位を意識させながら十進位取り記数法の指導をしていく必要があります。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小学校算数B</p>	<p>「4事象の数理的な側面に着目し振り返って考えること(カードの敷き詰め)」では、長方形の面積や辺の長さに着目してカードの敷き詰め方を複数考えたり、示された長方形にカードを敷き詰めることができないと判断するための方法を言葉や式を用いて記述したりすることができています。</p> <p>「2事象の数学的な解釈と処理(上皿てんびん)」では、筋道を立てて考え、重さの範囲を「～より重く、～より軽い」と表現し、示された数値の中から適切なものを選択することに課題があります。複数の情報をわかりやすく整理して表や図などにまとめる活動を取り入れる指導が必要になります。その際、複数の情報を基に重複している部分や異なっている部分などに着目して、複数の情報から分かる事柄を過不足なく表現できているか否かを児童自身で確認していくように指導することが大切です。</p> <p>「3情報の選択と判断の根拠の説明(港博物館)」(1)では、与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択することに課題があります。問題解決のために必要な条件をすべて考慮できているかを再考したり、条件と照らし合わせて答えを見直したりする場を設定していくことも大切です。</p>

【中学校3年生】

学 力 の 状 況	
中学校国語A	<p>漢字を正しく読んだり書いたりする力は定着しています。</p> <p>「2スピーチをする」では、効果的なスピーチをするために展開の仕方を工夫することについての理解は定着しています。</p> <p>「5提案する文章を書く」では、自分の意見を伝えるために、適切な材料を選ぶ力や自分とは異なる立場の意見を取り入れて、説得力ある文章を書く力に課題があります。自分の考えを提案して文章を書く際には、内容を具体的に示すとともに、提案の根拠について十分に意識することや異なる立場の意見も取り入れて、文章の説得力を高める指導が必要です。</p> <p>「7短歌を読む」では、短歌の形式に従って、意味のまとまりをつかむことに課題があります。言葉のつながりや、意味のまとまりを意識して、句の切れ目について考えることで、作品の基本的な構造をとらえ、作者の感動のありようなどについて考えを深めるように指導する必要があります。</p>
中学校国語B	<p>「1情報を読む」では、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる力は定着しています。</p> <p>「2情報を整理する」では、説明的な文章から必要な情報を読み取る力に課題があります。文章から目的に応じて情報を取り出す際には、どのような情報が必要なのかを明確にし、内容を整理しながら読むように指導する必要があります。</p> <p>「3詩を味わう」では、詩を読んで、詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書く力に課題があります。文章を読んで自分の考えをまとめる際には、文章のみならず、関連する図表などの資料も合わせて読み、文章の理解を確かなものにし、イメージを膨らませたりする指導とともに、音楽や美術の鑑賞指導と関連付けて指導を行うことも望まれます。</p>
中学校数学A	<p>「1比の意味・正の数と負の数とその計算」では、2つの数量を簡単な比に表すことや指数の意味や計算順序を考えて計算すること、「9比例定数の意味・座標・比例の表」では、比例定数の意味や比例の関係を表す表の特徴を理解することは、できています。</p> <p>「10反比例の意味と式」では、具体的な事象で2つの数量の関係が反比例の関係になることを理解することや反比例の表からxとyの関係を式で表すことに課題があります。いろいろな表やグラフ・式との比較から反比例の特徴を見出せるように指導し直す必要があります。</p> <p>「4対称な図形・作図の利用」(2)では、三角形の両端の角を重ねるように折ったときでできる折り目を「線分の垂直二等分線」ととらえることに課題があります。角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの用語と、作図の方法を関連付けられるように、合同の図形を見出したり、図形の性質を基に筋道立てて説明したりしながら指導する必要があります。</p>
中学校数学B	<p>「1事象の数学的な解釈と判断(紋切り遊び)」では、事象を図形に着目して観察し、その特徴を的確にとらえること、「5情報の選択と判断(賞品当てゲーム)」では、与えられた場面から起こり得る場合を分類整理することは、できています。</p> <p>「3事象の数学的な解釈と問題解決の方法(電球形蛍光灯のよさ)」では、表やグラフから必要な情報をよみとり、事象を一次関数の知識・技能などを活用して説明することに課題があります。実生活の場面における問題解決では、事象をモデル化・理想化して数学の問題としてとらえることが大切です。このような活動を通して、数学を活用する意欲や関心・態度を養うことも大切です。</p> <p>「4証明の方針(中点で交わる2つの線分)」では、証明の方針をよみ、証明を振り返って考えることや別の証明の方針を立てることに課題があります。証明の仮定で得られた結論に着目して、新たな性質を見出したり、結論から必要な条件や仮定を導き出したりしながら、証明をよむ活動や証明を評価改善する活動を取り入れた指導をする必要があります。</p>

(2) 質問紙調査結果

児童生徒質問紙、学校質問紙の結果から本市の傾向や課題を明らかにするにあたり、質問事項に対する肯定的な選択肢の上位二つ(たとえば、「よくしている」「どちらかといえばしている」)の合計値を算出し、全国平均の肯定的な選択肢上位2つの合計値と比較し、分析を行いました。

児童生徒質問紙調査の結果

全体の傾向

<p>ア 本市の児童生徒の全体的な傾向は、全国の状況と同じです。</p> <p>イ 「基本的な生活習慣」「学習に対する関心・意欲・態度」等の約8割の項目について、肯定的な選択肢を選んだ児童生徒が全国の割合を上回っています。</p>

【特徴的な質問に対する結果】 本市の児童生徒のよさ 本市の児童生徒の課題

<p>小学校6年</p>	<p>朝6時半より早く起きる児童、夜10時前に寝る児童の割合が全国より高く、早寝早起きの習慣が身についている児童が多いことがうかがわれます。</p> <p>家で学校の宿題をしている児童の割合が全国より高く、ほとんどの児童が家庭学習で宿題をしていることがうかがわれます。</p> <p>読書をしたり、図書館の利用をしたりする児童の割合が全国より高く、本に親しんでいる様子がうかがわれます。</p> <p>携帯電話で通話やメールをしている割合は、全国より低いのですが、携帯電話を使用している児童が、使い方について家の人と約束をしたことを守っている割合が全国に比べて低く、携帯電話の使い方について指導をしていく必要があります。</p>
<p>中学校3年</p>	<p>「自分にはよいところがあると思う」と答えた生徒の割合が全国より高く、自己肯定感をもっている生徒が多いことがうかがわれます。</p> <p>「テストで間違えた問題を後で勉強している」と答えた生徒の割合が全国より高く、テスト後の復習を丁寧に行っていることがうかがわれます。</p> <p>「家で学校の授業の予習をしている」と答えた生徒の割合が、全国より低く、家庭学習のあり方について考えていく必要があります。</p> <p>携帯電話については、小学校6年と同様の結果であり、指導をしていく必要があります。</p>

学校質問紙の結果

全体概要

<p>ア 本市の学校の取組の全体的な傾向は、全国の状況と同じです。</p> <p>イ 小学校、中学校とも肯定的な回答の割合が全国より高い項目が6割以上あり、全国平均をやや上回る指導方法に関する取組や教育条件の整備がなされていると言えます。</p>

【特徴的な質問に対する結果】 本市の学校の取組のよさ 本市の学校の課題

<p>小学年・中学校</p>	<p>朝読書や学校図書館を活用した授業など、読書を学習に位置づけている学校が多いことがうかがわれます。</p> <p>国語や算数・数学で、コンピューターの活用を行っている学校の割合が全国と比べて高く、ICTを活用した授業への取組がよく行われていることがうかがわれます。</p> <p>「模擬授業や事例研究など実践的な研修を行っている」と答えた学校の割合や「校内外の研修や研究会に参加し、その結果を教育活動に積極的に反映させている」と答えた学校の割合が全国に比べて高く、教職員の研修が充実していることがうかがわれます。</p> <p>放課後や長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した割合が全国より低く、学習サポートのあり方について考えていく必要があります。</p> <p>「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている」と答えた学校の割合が全国よりやや低いことから、学校におけるキャリア教育のあり方について考えていく必要があります。</p> <p>校長が週に2～3回以上校内の授業を見て回る学校の割合は全国に比べて低く、各学校で向上を図る取組が求められます。</p>
----------------	---